

行事食の実施状況と意識に関する調査

○浅野恭代¹、南幸¹、和辻敏子²、田中順子³、岡田真理子⁴、岡本洋子⁵
 福岡明美 (¹桜井女子短大 ²甲子園短大 ³親愛女短大 ⁴大手前栄養専門
⁵南海福祉専門 ⁶大阪府立老人大学)

【目的】日本の家庭における年中行事は、稲作儀礼を中心とした日本古来の習慣や貴族、武家の習風が取り入れられ、伝承されてきている。しかし、経済の発達や核家族化、食生活の多様化に伴い年中行事は、行事の由来も語られないまま、商業ベースに巻きこまれているものもある。そこで、伝統を受け継いでいくべき若い世代の行事食に対する意識や実施状況を調査した。

【方法】近畿圏内の短大、専門学校に在籍する学生724名を対象として、1999年4月—5月に、食生活と行事食に関するアンケート調査を自己記入方式により実施した。行事は年中行事12項目、通過儀礼9項目、外来行事1項目、計22項目について、実施状況や関心度を調査した。

【結果】①食生活で大切に思っていることは、「おいしさ重視」「三食食べる」「健康を考えて食べる」である。②行事食に関しては「食文化の継承に大切」60.7%「関心がある」52.9%「伝えていきたい」51.0%で、いずれも女性が有意に高い。③家庭内での行事食の実施率は、「お正月」が最も高く、70%以上の家庭で実施しているものは「大晦日」「節分」「クリスマス」である。三世代家族で実施率の高いものは、「お盆」「お月見」「冬至」「誕生日」「法事」「クリスマス」である。居住年数が30年以上の家庭では、「お盆」「お月見」「法事」の実施率が高い。④今後も残したいと思う行事食は、「お正月」「誕生日」「クリスマス」「大晦日」「雛祭り」「節分」である。⑤「おいしさ重視」「三食きちんと食べる」など、日常の生活を重視するものは、行事食に対する関心度は低く、伝えていきたいと思うものも有意に少ない。